

# 個人保証解除に係るセルフチェックシート

## ▶ 経営者保証ガイドラインに基づくチェック項目

### ① 法人と経営者個人の資産・経理が明確に分離されているか

- 例) ・ 本社、工場、営業車等、営業活動に使用しているものが社長名義  
= 会社単体での営業活動ができないのではと疑義を持たれる  
・ 社長の役員報酬の決定プロセスが俗人的  
= 上場企業同様、決定のプロセスは「ガラス張り」の方が良い

### ② 法人・経営者間の資金のやり取りが、社会通念上適切な範囲を超えない

- 例) ・ 役員報酬、配当、地代等で平均以上の収入を社長が得ている  
= 会社を恣意的に個人が操作できる割合が高い、保証解除は困難  
・ 「接待交際費」等に個人の費用が混ざっている  
= できる限り費用は明確にした方が効果的  
・ 役員貸付、役員借入は大きなマイナスポイント

### ③ 法人のみの資産・収益力で借入返済が可能と判断し得る

- 例) ・ 金融機関からの「格付」が一定以上  
= 金融機関からの見られ方を知り、改善ポイントを把握する必要性  
・ キャッシュフローを意識した経営がなされている  
= お金の借り方・返し方が効率的である

### ④ 法人から適時適切に財務情報等が提供されている

- 例) ・ 税制上のルールに従った適切な決算書を作っているかどうか  
・ 資金繰り表、事業計画等を精緻に作りこんで社外に告知できるか  
= 特に、金融機関向けに理解してもらえる計画策定が重要

### ⑤ 経営者等から十分な物的担保の提供がある

- 例) ・ 不動産担保、保証協会付融資の活用状況を適切に把握する  
= **預金・融資・為替**の3大要素も合わせてチェックできるとなお良し

## ポイント

①～⑤の項目は全て…

**「経営と所有の分離」というキーワードに集約される**

# 担保解除に係るセルフチェックシート

## 担保の基本

債務の履行を確実にするために、債務者から債権者に提供される事物。大きくは「**人的担保(個人保証)**」と「**物的保証(不動産、有価証券等)**」に分かれ、ここでは主に不動産をはじめとする物的保証に関して説明を行う。

## 【知っておくべき3大ポイント】

### ①担保が設定された「**経緯**」

例) 融資のタイミング、関連会社の保証、

- ・担保は会社の資金調達や信用力の補完として役立つ。当初設定された経緯によっては、逆に解除してしまうと企業の金融取引にとってマイナスとなる場合もある。「いつ、いくら、なぜ」設定されたかを確実に把握することが大切。



### ②担保対象（融資等）と担保価値の「**バランス**」

例) 当初1億円の借入に対して、1億円の価値のある新築不動産担保



2年後、残高60百万円まで減少した借入に対して、担保価値は？

- ・担保対象である融資の残高等と、担保となる不動産価値、有価証券価値は「**ナマモノ**」であり、常に価値・残高が変動する。昔は釣り合っていた担保と融資が、数年後にはバランスが崩れている可能性も。企業⇄債権者間のリスクバランスが一致しているのか、再確認を。



### ③対象金融機関との「**預金・為替**」等の日常取引状況

例) 担保も入れて、預金も借入以上に置き、金利も払っている…

- ・金融機関が担保解除を検討する時は、融資取引だけではなく預金・為替・外為等の日常的なその他取引も全て調べて、総合的な判断を下す。自社がいくら金融機関に支払い、どんな付き合い方をしているかを、できる限り丁寧に調べる必要がある。

